

第9回議会報告会での発表内容等（区別）

〔 全8区：コミュニティ協議会との意見交換 〕

テーマ：「新潟市のまちづくりについて」

北 区

課題：医療について

<問題>

- ・豊栄病院の産婦人科の常勤医が退職し、平成28年3月より休止している。
- ・病院や個人医院が夜間診療に対応しておらず不安だ。

<解決策>

- ・産婦人科や脳外科など、不足の診療科の増設を市から医師会に積極的に整備できるよう働きかけてもらうと共に救急指定病院に指定してもらう。
- ・個人医院間の連携を促し、夜間診療体制の整備を行政から医師会に改善を働きかけを行う。

課題：地域包括ケアシステムについて

<問題>

- ・自治会や地域活動に参加してくれる方が固定化されており機運が高まっていない。
- ・自治会内の民生委員の負担が大きい。
- ・一人暮らしの高齢者の状況把握が不十分であり、軽度認知症の方の把握も難しい。

<解決策>

- ・地域包括ケアシステムを今まで以上に、市の広報誌などでPRし周知する。
- ・介護保険制度の更なる見直しと在宅介護をしやすい環境づくりを推進する。

課題：特別養護老人ホームについて

<問題>

- ・特別養護老人ホームの待機者が多く、入居できない。
- ・老人ホームの数が少なく、今後の不安である。

<解決策>

- ・在宅医療・介護体制の確保や整備を急ぎ、特養などの介護施設の充実を図る。
- ・介護保険制度の更なる見直しと在宅介護をしやすい環境づくりの推進を行う。

課題：空き家対策

<問題>

- ・農村部の空き家が増えてきているため対策が必要。

<解決策>

- ・空き家をリフォームしてグループホームにする。

課題：公共交通について

<問題>

- ・生活交通、医療機関へのアクセス網が弱いため、老後が不安である。

<解決策>

- ・区バス、住民バスの整備を行い、公共交通の見直しを行う。

東 区

課題：少子化・人口増について

<問題>

- ・公共交通、BRTは役に立たないのではないか。
- ・道路環境の整備が必要。
- ・魅力ある企業がない。

<意見>

- ・高齢者の生活環境を充実させる。
- ・1次産業を活性化して新潟の魅力をつくる。

課題：防火・防災について

<問題>

- ・地震と阿賀野川の氾濫に備える対策が必要。
- ・要支援者の把握が必要。
- ・災害が起きた時、誰が避難を指示するのか。
- ・自治会の避難場所に対応できるのか。
- ・避難食の配置を考える必要がある。
- ・支援が必要な人への、避難所での対応はどうするか。

<意見>

- ・井戸やコンビニのある場所などを事前に把握する。
- ・避難訓練への参加者を増やす。
- ・自治会でも班単位などで対策をつくる。
- ・マンションの上階が空いてれば、避難場所や避難食の保管をする。
- ・もっと女性の視点を入れる。

課題：公共交通について

<問題>

- ・バスの利用が不便。
- ・高齢者の免許返納にはメリットがない。
- ・BRTは乗り換えの場所が分かりにくい。
- ・バスを乗り換える際に運賃が余計かかる。

<意見・要望>

- ・新潟駅の下を一般車も通して利便性を図る。
- ・BRT続けるなら東区も導入してほしい。
- ・ICカードの普及を進める。
- ・身近でバスに乗れるようにしてほしい。
- ・1人暮らしの高齢者が街に出る方法を考えてほしい。
- ・市街地に行きやすい方法を考えてほしい。

- ・バス停に関係なく利用できるシステムにしてほしい。
- ・区バスの増便をしてほしい。
- ・区バスの小型化をしてほしい。
- ・乗合タクシーが欲しい。

課題：少子化について

<問題>

- ・晩婚化で子供が少ない。
- ・市として出会いの場をつくっても知らない人がいる。
- ・若い人は西区に住みたがる。

<意見・要望>

- ・市として出会いの場をつくる。
- ・東区を盛り上げて住みたくなる地域にする。
- ・子ども医療費助成制度をわかりやすい制度にしてほしい。
- ・子育てに対するサポート制度など支援策がわかるようにPRしてほしい。

課題：医療・介護について

<問題>

- ・不安を感じている人が多い。
- ・特養になかなか入れない。
- ・経済的な問題で孤独死がある。

<意見・要望>

- ・「地域の茶の間」を増設してほしい。
- ・高齢者の買い物がしやすいようにしてほしい。
- ・挨拶が交わせるような地域にしたい。
- ・交流の場を作りたい。
- ・生活の利便性を図るために、買い物ヘルプをしてほしい。
- ・医療ネットワークの普及をしてほしい。
- ・バスを小型化して増便してほしい。
- ・病院専用バスがあればよい。
- ・ごみを玄関先で個別回収してほしい。

中央区

沼垂小学校区コミュニティ協議会の皆さんから、地域で行っている活動について事例発表していただき議員と意見交換を行った。

○「沼垂テラス商店街」の活動について 株式会社テラスオフィス

活気に満ちたまちづくりをめざした「ACTIVE 再生プロジェクト」について

沼垂市場通りは組合管理のもと昭和30年代に最盛期を迎えたが、それをピークに近年では全国津々浦々の商店街同様、高齢化や郊外化などの要因でシャッター街となり客足が遠のく。平成22年頃から若者が増加する変化の中、3店舗の出店を皮切りに若者が集まる一大ムーブメントが起り、平成26年に市場全体を管理するテラスオフィスを設立。その後は続々と出店が増加し、ついには旧沼垂市場全体が店舗となる沼垂テラス商店街としてのオープンに至り、個性的な店舗が連なる商店街として若者やメディアを中心に熱い注目を集めている。

<現在の取り組みについて>

- ・沼垂テラス名物としてオリジナル商品づくり
県産品の食材を用いて地元企業と連携した商品開発 「沼ネコ焼き」など
- ・地域の空き家を活用したサテライトショップづくり 「ゲストハウス」
- ・定期的なイベントの開催 「朝市・冬市」の開催
- ・沼垂結び婚や沼垂テラスグフトセットの開発

<課題>

現在、沼垂テラス商店街は個性溢れる店舗の様々な取り組みがメディアを中心に紹介され、老若男女問わず多くの集客があり、慢性的な駐車場不足の課題がある。特に月一度のイベント開催時の駐車場不足解消が必要である。

<議員からの意見>

早速、沼垂テラス商店街の先駆的な取り組みと意義深い活動を地元の商店街にも紹介し、地域の活性化につなげていきたい。

○地域の茶の間「よろてば沼垂」について

- ・社会福祉協議会のモデル事業として空き家を活用。
- ・地域の茶の間「よろてば沼垂」会報誌を毎月700部発行。

<議員からの意見>

会報誌から地域の旬な情報てんこ盛りで様々な素晴らしい活動内容が見受けられる。今後もよろてば沼垂の地域と連携した活動に期待したい。

○「沼垂ビール醸造所」の活動について

- ・ 3年前にビールを造る醸造所「沼垂ブルワリー」を立ち上げる。
- ・ ローコストで手作り。1回の製造は150リットルで、こだわりは活きた酵母入りビールの3種類をラインアップ。味は大手企業に引けを取らない。
- ・ 地域限定ブランドとして、沼垂に訪れた多くの方々が沼垂ブルワリー&ビアパブをはじめ、飲食店などで沼垂ビールが楽しめる。
- ・ 缶売りはしないであくまでもおいしく飲むために樽での販売が基本。

<議員からの意見>

当時、地元にある地域ビールの会社はかなりの投資をしたため、コストの価格への転嫁により高額な商品として売り出された。最初の頃は珍しさもあり飲まれたが、現在はリピーターがあまり多くない状況と聞く。沼垂ビールはローコストで価格が安いと考えられる。多くのリピーターが付き、地域ビジネスとしての成功を期待したい。また地域限定のブランドを地域でつくり、地域に愛され、明日の地域の活力につなげてもらいたい。

○「沼垂まつり」の運営について

- ・ 一時途絶えたが復活した。
- ・ 祭りは沼垂の子どもからお年寄りまで一つなれる。

<議員からの意見>

地域の伝統文化・伝統芸能の継承や保存は大変であると聞く。沼垂灯ろうの岩万灯と地元にある木遣りとは交流が長い。地域間で意見交換を重ねることで活性化につなげていきたい。

江南区

課題：今後の医療と介護のあり方

<問題>

- ・共働きで介護ができる人がいない。
- ・認知症予防への対応をどうするか。
- ・子育て支援を手厚くしてほしい。
- ・ボランティア確保が難しい。
- ・地域の茶の間等へ専門的な支援がほしい。
- ・冬場は外に出られず、高齢者が運動不足、コミュニケーション不足になる。
- ・介護保険制度改正による本市の総合事業が開始されるとどう変わるか。
- ・介護保険利用の書類の作成や手続きが複雑で大変である。
- ・訪問診療してくれる人が少ない。
- ・料金が高額な所が多い。
- ・運転免許がなく大変である。
- ・面会に行くにも費用がかかる。

<意見・要望>

- ・介護は家族だけでは限界があるので、隣近所の助け合いが大切。
- ・人材確保には行政によるサポートが必要。
- ・在宅医療支援のシステムづくり、主治医と訪問看護の連携が必要。
- ・デイサービス施設の充実が必要。
- ・住民バスや乗合タクシーなどを充実してほしい。

課題：地域産業の振興

<問題>

- ・市外から企業誘致（製造業、IT企業等）しないと働く場がない。
- ・企業を誘致するにも工業用地がない。
- ・働く場がないので、人口が流出する。
- ・都市インフラの老朽化
- ・非正規労働者の老後が心配。生活保護受給者が増すのではないか。
- ・大手量販店は非正規雇用ばかりで地域振興につながっていないのではないか。
- ・起業家への支援策が乏しい。
- ・商店街の店も少ないが、空き店舗もない。
- ・市の中心で交通の結節点ではあるが、道路が混みすぎている。

<意見・要望>

- ・雇用創出へ取り組む。
- ・公共工事を増やす。

- ・起業家への支援を拡充する。
- ・亀田駅前の障がい者施設と農家が連携する。
- ・食と観光を結びつける人を呼ぶ。
- ・農業活性化には都市化（人口増）が近道。
- ・既存の業種以外も呼び込み商店街を活性化させる。
- ・地元企業（亀田製菓、山崎製パン）の工場見学で観光客を呼び込む。
- ・新商品（珍しいもの）を開発する。
- ・地元の産業を活かせる拠点があるといい。
- ・若者が集まる活気のあるまちづくりが必要。
- ・産業振興と都市基盤を一体化してほしい。
- ・鉄道（新幹線、電車）の新潟空港への乗り入れを行う。

課題：公共交通

<問題>

- ・鉄道の日中の便数が少ない。
- ・バス料金が安い。
- ・バス料金支払いシステムが難しい。
- ・りゅうとカードの使用が難しい。
- ・バスの乗り換えが不便。
- ・バスだと目的地に到着するまで時間がかかる。

<意見・要望>

- ・鉄道が非常に便利である。
- ・鉄道の料金も安く、本数も多い。
- ・亀田駅は西口と東口があり利用しやすい。
- ・亀田駅構内の除雪が行き届いている。
- ・江南区内にもう1駅欲しい。
- ・二本木駅の早期実現を望む。
- ・上町バス停が便利。
- ・BRTをやめてLRTにしてもらいたい。
- ・雨の当たらないバス停留所を増やしてほしい。
- ・バスの色を統一してほしい。
- ・区バスは意外と好評である。
- ・区バスの本数を増やしてほしい。
- ・区バスのバス停以外でも乗降できるようにしてほしい。
- ・住民バスの補助金を増額してほしい。
- ・乗合タクシーがあるといい。
- ・二本木駅の設置計画についてどうなっているか。

秋葉区

課題：少子高齢化対策について

<問題>

- ・ 育児施設の確保や育児休暇の取得など子育ての大変さがある。
- ・ 結婚したくても所得が少なく結婚できない。
- ・ 結婚しない人、結婚に魅力を感じない人の増加。
- ・ 晩婚化の進行。

<意見・要望>

- ・ 0歳児保育などの環境整備が必要。
- ・ コミ協などが「出会い場」などのイベントを企画する。
- ・ 産休や育休などを制度化する。
- ・ 夫の協力が大切。
- ・ 出産時に100万円の助成金を支給する制度をつくってはどうか。

課題：医療・介護について

<問題>

- ・ 施設に入れない。
- ・ 介護保険料の値上げが続いている。
- ・ 大きな病院に入れない。
- ・ 病院などに行く交通手段（車）がない。
- ・ 検査項目が多すぎる。
- ・ 農村部から受診しにくくなっている。
- ・ 高齢者負担が年々増加している。
- ・ 施設に入ると運動不足に陥り、認知症が進む。

<意見・要望>

- ・ コミ協など町内単位、隣近所の付き合いや見守りが必要。
- ・ 市の検査項目を増やしてほしい。
- ・ カルテの共有化を進める。
- ・ 定期検診を増やす。
- ・ 食事についての学習会の開催を増やす。
- ・ 趣味を増やし、健康寿命を延ばす。

課題：公共交通について

<問題>

- ・ BRTの恩恵がない。

- ・ BRT までの交通手段がない。
- ・ JR の駅はあるが、その駅へ行くまでの手段がない。
- ・ 区バスは1本のみで「区バス」といえない。

<要望>

- ・ シニア半わりの手続きが行える窓口を区役所にも設置してほしい。
- ・ 運転免許証の返納後、健康寿命延伸のためにも支援や手当をしてほしい。

南区

課題：雇用について

<問題>

- ・働き口がないため、人口が流出する。
- ・最低賃金が安すぎる。
- ・価値観が違ってきている。自身に適した働き口が地元にあまり無い。
- ・育休後の復帰を望んでいても保育所への入所が4月まで待たされる。
- ・農業を主としてきた地域であり地元企業で働くという感覚が若年層と異なる。
- ・交通機関が発達していない。
- ・働ける企業への足が自家用車に頼るしかない。

<意見・要望>

- ・希望するとき希望する保育を受けられると良い。
- ・農業の法人化とともに魅力的になる。
- ・大手企業の誘致。
- ・子どもを預けながら安心して働けるような仕組みと保育所の充実。
- ・民間の保育所、公立の保育所の充実。
- ・最低賃金を上げて働く意欲の向上につなげる。
- ・道路整備が必要。
- ・国道8号線の片側2車線化を。
- ・景気を良くしてもらおう。中小企業の景気対策をもっと行う。

課題：人口流出について

<問題>

- ・大学の魅力がなく県外へ流出している。
- ・就職先が少ない。
- ・南区としての魅力がない。アピール不足。
- ・都会への憧れがある。
- ・雪が面倒。
- ・収入が少ない。
- ・都会には可能性がたくさんあるのではないか。
- ・東京は面白そう。県内の大学は魅力がなく県外へ流出し、そのまま就職してしまう。
- ・県内の大学は魅力がない。
- ・企業に勤めても収入が安定しない。
- ・新潟は平野で魅力が無く、特色もない。
- ・大学の魅力が無い。
- ・市の工場立地政策に問題があるのではないか。

- ・市内の企業が他市に用地を求め拡大している。
- ・学業と就職先のミスマッチがあつて、新潟に帰ってこれないのではないか。
- ・戻ってくるための受け皿がない。

<意見・要望>

- ・学校、企業との連携が必要。
- ・地元大学の魅力の発信。
- ・大学の学費無料化。
- ・中高生に地元優良企業や先端企業を PR する機会を設ける。
- ・工場見学の機会を設ける。
- ・新潟の魅力を発信する。
- ・農業の魅力を発信する。

課題：人口減少と高齢化とコミュニティ（自治会・町内会）の維持について

<問題>

- ・自治会、町内会の役員が1年で交代するなど、町内のまとまりが薄れている。
- ・自治会に高齢者が多い。
- ・町内の人口が減って役職に就いてくれる人がいない。
- ・自治会で行うことが多すぎる。
- ・単身世帯、夫婦2人世帯で町内会の役員ができないと言われる。
- ・町内会が合併によって問題解決を図ろうとしても現状を変えたがらない。
- ・子育て世代の人は仕事が忙しくコミュニティに出づらい。
- ・自治会の仕事が多すぎる。
- ・ごみ集積所の管理が難しくなっている。除雪が大変。
- ・近所付き合いが難しくなっている。
- ・空き家が多くなった。
- ・祭りが出来なくなっている。
- ・神社の維持ができない。
- ・若者の人口流出によって高齢者世帯が増えている。
- ・若い人たちが少ない。
- ・産婦人科が無くなり子供が産めない。

<意見・要望>

- ・長男が跡継ぎとして家に残れるように企業の誘致をしてほしい。
- ・若い人たちの働く場をつくってほしい。
- ・町内会の班の再編、合併を行う。
- ・町内会、自治会の会議の回数を減らす。
- ・白根大風合戦の運営の別組織化をする。
- ・祭りの中日に町内でイベントを開催する。

- ・祭りを土日に行う。
- ・町内のイベントで飲みニケーションを行い、40代、50代のネットワークづくりを行う。
- ・市役所職員を利用する。
- ・役所は自治会の役割も多少なりと考えてもらいたい。
- ・町内会、自治会の仕事を減らしてもらいたい。
- ・回覧板は大事なものに限定するべき。
- ・仕事を自治会に丸投げしすぎではないか。
- ・少子高齢化の現状に合わせたコミュニティづくりのリーダーシップを取ってほしい。

課題：まちの活性化について

<問題>

- ・自治会の役員がいつも同じ。
- ・自治会の役員のなり手がいない。
- ・若者（高校生）の姿が見えない。
- ・高齢者と子育て世代が一緒になる場がない。
- ・人が集まる場所がない。
- ・子どもが集まる場所がない。
- ・これという売りがない。
- ・PR不足。
- ・公共交通が不便。
- ・アクセス道路が悪い。
- ・移動する手段がない。
- ・他の地域から来たいと思うものが少ない。
- ・白根の人が思っているほど「凧」が知られていない。

<意見・要望>

- ・アグリパークの活性化を行う。
- ・トイレのきれいな直売所を整備する。
- ・名産品がどこで入手できるか分からない。おいしい果物があるが、どこで買ったらいいか分からないため、情報の発信が必要。
- ・再び南区に来たくなるような施設の整備を行う。
- ・凧合戦時の駐車場に直売所を設置する。
- ・東京の渋谷で「凧」を揚げる。
- ・参加できる催し物の開催。

課題：医療と介護について

<問題>

- ・施設の入所費用が高い。
- ・スポーツ施設が少ない。
- ・体を動かすことが少ない。
- ・施設介護から地域や家庭にベクトルが移った。
- ・介護施設の職員が少ない。
- ・介護保険制度を利用しないまま死亡する人が多い。

<意見・要望>

- ・仲間づくりが大事。
- ・空き家を利用し、運動やコミュニケーションの場所づくりにする。
- ・病気にならないようにする。
- ・1年間医療機関などに受診しなかった場合など健康増進に努めた人への褒賞として特典制度を創設する。
- ・高齢者にも張り合いのある施策が必要。そうすることで、医療費や介護費用の削減につながり、地域もいきいきとした「まちづくり」につながる。
- ・地域に高齢者ばかりなので、高齢者を元気にする施策展開が必要。元気のない高齢者ばかりだと地域そのものに活力がなく、若者から敬遠される。
- ・地域文化などを若者へ伝承する必要がある。

課題：今後の医療と介護の在り方について

<問題>

- ・検診の受診率が低い。
- ・孤独死が増加している。
- ・個人情報への壁がある。
- ・町内の行事に若い人が参加しない。
- ・それぞれの組織がどんな役割をしているのかが分からない。

<意見・要望>

- ・市として気になる世帯を継続してフォローする。
- ・地域の見守り、声掛け運動を行う。
- ・情報公開を行う。
- ・情報をわかりやすく、スリムに発信する。
- ・地域包括支援センターが何をしているのか明らかにすべき。

西 区

○大野校区ふれあい協議会とのグループワーク

<公共交通について>

- ・ BRT で黒埼は乗り換えが不便になった、新潟駅直行便を出してほしい。
- ・ ウォーターシャトルの利用で、8号線の交通量の減を工夫してほしい。

<空き家について>

- ・ 空き家が非常に問題になっているが、取り壊しの費用に対する支援がほしい。

<若者の雇用>

- ・ 若者の定着には雇用の場が必要、企業誘致に取り組むなど働きかけてほしい。

○山田校区ふれあい協議会とのグループワーク

<自転車道について(電鉄跡地)>

- ・ 歩行者と自転車が事故にならないよう、色分けをするなど工夫をしてほしい。

<新幹線の騒音・震動・風圧について>

- ・ 新幹線は夜の11時55分が最終で、騒音で沿線50世帯位が悩まされている。特に、2階建て車両になってから防音壁を超え音が大きくなり、何とか対策をとって住環境を改善して、若い世帯が定住しやすい黒埼にしてほしい。
- ・ 離れているところでも震動がひどくなり、風圧で老朽化しているのか防音壁がガタガタと音がするので、対策をしてほしい。
- ・ 線路の融雪の水が下の側道に落ちて、冬は凍って滑る事故も起きているので、対策をしてほしい。

<少子化対策について>

- ・ 近くの保育園に入園できず遠くの保育園に通園している。保育園が足りないようでは、少子化対策にならない。

<ボランティア活動への支援>

- ・ コミ協の人はボランティア活動に参加しているが、報酬はない。報酬が少しでもあれば張り合いになって、もっと活発になるのではないかな。
- ・ 歩行者と自転車が事故にならないよう、色分けをするなど工夫をしてほしい。

○立仏ふれあい協議会とのグループワーク

<災害に強いまちづくり>

- ・ 要援護者には情報が来るが、隣近所は個人情報関係で来ないので、災害時の対応に支障をきたす。また、民生委員サイドからの情報もあるといい。
- ・ 災害によって、どこの避難所に行けばいいのかわかるようにしなければならない。
- ・ 避難所の運営、体制づくりをしておかなければならない。
- ・ 備蓄や飲料水などの保管は、小学校単位で置くべきではないかな。
- ・ 地域の防災教育を行い、常日頃から防災意識を高めるようにしなければならない。
- ・ 地域と市、議会がみんなで考えていければ、さらにいいまちづくりができるのではないかな。

○黒崎南ふれあい協議会とのグループワーク

<地域産業の振興と農業政策>

- 1,100 世帯で高齢化が深刻になっており、公共交通は不十分、農家は所得が減って元気がないという地域になっている。農家が元気でなければ、周りも元気が出ない。
- 農家を続けようとするには、500 万～1,000 万円もするようなコンバインが必要になるが、共同経営でなければ買えない。結局、高齢の農家は置いてきぼりになっている。
- 高齢農家が生きがいを感じられる野菜作りでも一定の収入が入るようにしなければならぬのではないか。
- 農業所得が増えるような公的な施策をぜひ考えてほしい。平成 30 年度から減反政策が廃止されれば、さらに米の値段が下がること懸念され、代わりの施策があればいいが結論が出ることはないので、今後も考えあっていきたい。

西蒲区

(○：参加者発言、●：議員発言)

課題：農業支援のあり方

- 農業関連の支援は市→県→国となるが、市と国・県の連携がうまくいっていない。その辺の認識が薄いのでは？
- 国・県・市との関係の中でそれぞれ役割分担があるので、市でできる対応については一番近い行政機関として生の声を聞かせていただきながら対応にあたっていきたい。
- 農業委員会とJAの関係もあるが、この4者が連携していかないと上手くいかない。

- 国と県は農業を産業として捉え、市は一部、産業として捉え、大まかに言うと観光として捉えている。新潟市の農業の大きさからすると観光で捉えられる規模ではない。アグリパークも分析センターのようなものをつくってほしかった。農業は産業であるという考え方を行政にもきちんと伝えてもらいたい。
- 農政担当部署に食や観光ではなく産業として捉えること、また分析センター等の大事さを伝えたいと思う。
- その方向性については、議会と行政でつくったこのビジョンのところに反映しており、農業は6次産業化であるということを明確にし、その方向に進んで行くということである。足りない部分はきちんと受け止めさせていただきながら、議会としても行政と一緒にあって取り組んでいく。

- いくら地元の農家が頑張っても、それなりに生産をあげても、どうしても全体的に収益が上がらない。今農業に対して「何をやってもダメだ」という状況が社会の中にあるが、もう少しそこに踏み込んで議会の議論や考え方を変えていただきたい。
- 西区は畑作農家が昨年大収穫で利益を上げたと聞いている。畑作農家は頑張れば実績が上がる一方、稲作農家は頑張っても米の値段が安くて、去年はトントくらいで後継者も望めないという状況は把握している。角田の方はそれ程耕作放棄地が多いのか。
- 耕作が放棄されている状況の土地が3～4割ある。西区がいいというニュースも聞いていない。我々砂丘地部分の畑農業はやめることしか考えていない。

- 実際に一生懸命農家をやっているつもりだが儲からない。新潟市は田園指定都市で特区になっている。評価が上がったり、関心を持たれるのは非常にありがたいが、現実的に農家には何のメリットもない。現実の問題を列挙していくとキリがないが、何もできないで地域としては非常に困っている。そういう現場を見て、認識を深めてほしい。一生懸命皆やっているが現実には難しい。

○産業として捉えて欲しいと言ったが、新潟で大きなスーパーでも県産・市産の野菜は並んでない。なぜなら新潟市産はいいものであってもあてにならないからである。今日あっても明日はない、その辺を何とかして解決してやらないと豊かにはならない。きちんと大きな量販店に並ぶような仕組み作りを考えていけば新潟の農業は発展すると思う。

○農業特区と非常に華やかなように言われているが、現実には中小の兼業農家が中心であり、将来展望が非常に望めず、行政の農業に対する事業だけやって果たして将来が開けるのか非常に心配である。行政が本腰を上げて商業なり農業団体を含めた一つの農業の方向性をこれから腰を据えてしっかりと決めてもらいたい。

●個人的な意見だが、農業経営を持続させていく、そのための制度や条件が必要だと思う。それでこそ後継者や、新たに農業を始める人も増える状況になる。農業産業政策として位置づけて同時に国民の食料として位置づけて、もっともっと予算を使って農産物の価格保証や戸別所得補償なども組み合わせ安定して再生産できる、そういった農業政策をつくる必要があると思っている。そういった中で新潟市として何ができるか、私どもも議会の中で頑張っていきたい。

課題：子育て世代への支援のあり方

○今、子育てを行っている人達は、道徳とかしつけについて十分な教育を受けないまま親になっている人が多いのではないか。そして、その役割を学校教育に求めているのではないか。家庭でできないしつけを保育園、幼稚園、そして学校に求めている傾向を何とかしなければいけない。そうすると虐待とかいろんな問題が出てくるので、それを防ぐためにも家庭教育の重要性を一般行政の方から何とか考えてもらい、議会の場にも反映して欲しい。

●そのとおりであり、教育の原点は家庭にあるということで家庭教育のあり方が問われている。今の各コミュニティ協議会単位のレベルでの公民館を中心とした家庭教育振興事業が全体的な広がりになっているのかと言われれば、現実的にはなっていないが、それが広がって全体の取り組みになっていくような仕掛けが必要であると思う。足りない部分についてはまた研究させていただいて議会としてもやっていく。

○公民館の予算をだんだん削られているが、家庭教育の分野は公民館が中心になると思うので、予算的な充実を進めてほしい。今、公民館ではコミ協として子供たちの情操も含めてしつけとか一般的な道徳の分野に取り組んでいる。一例を言えば、子どもは一生懸命挨拶するが、親がさっぱりだとこともあるので、親子一体となった家庭教育の推進に是非力を入れてもらいたい。

- ヨーロッパの北欧では子供を産んだ後に3年間ぐらい産休育休が保障されている国もあり、日本も是非そのような社会保障の制度をマネするなりして、これからもっと子供を大事にして国、地域、県、地方公共団体みんなで育てていく姿勢を示さないと、結婚する人も少なくなるし、安心して子供を産めなくなる。是非そういった社会保障的なものをあらゆる構成団体で検討してほしい。
- 議会の市民厚生常任委員会でも積極的にそのような議論はしている。教育の地域連携に関しては全国でも新潟市がトップランナーだが、その元は地域の皆さんの力なので、区役所とのコミュニケーションがメインになると思うが、高齢者を支える仕組みではなくて、子供であるとか障がい者であるとか、あらゆる方を地域で支える仕組み作りになるような考え方で議論をしていきたい。
- このビジョンでは、子育て環境を整備すれば少子化も改善され、人口減少も改善につながるような表現になっているが違うと思う。何かきちっとした形のものを作らない限りはいつまで議論しても改善されない。西蒲区で婚活をやって成果を出したら、市長は少子化の中で西蒲区が婚活やっていると話しているが、話だけではダメで全体がそういった動きをしなければ改善にはつながらない。
- 資料の3ページの少子化対策の最初に、安心して結婚できる男性という項目を加えてほしい。

課題：その他

- 巻漁港の活性化をお願いしたい。湾内の新設も思うようにいかず船外機付きの5トンしか停留できない。漁業関係の商業活動計画が立ち上がったこともあったが、躊躇して先に進まないという状況がある。
- 巻潟東インターチェンジの周辺の土地の件についてであるが、今現在、巻潟東インターチェンジを降りて区役所へ向かったところに工業団地がある。68社程度入って営業活動しているが、隣にアパートがあり、音が出る工場などは、あきらめて他へ行っている。せっきやくインターチェンジ付近という立地条件であるため、エリアをもう少し広げれば企業も増えるのではないか。
- 12月議会の質問で工業団地が少ないのではという質問をしたが、現在東港と新潟市内に60か所くらいの工業団地があるが、空いてるのは東港と漆山工業団地と旗屋工業団地の3か所である。今の状況から言うと、旗屋工業団地も漆山工業団地もまだ田んぼのままの部分もある、そういう状況では企業を引っ張るにも埋め立ててから入って下さいではダメであり、議会としても順次努力して行きたい。

- 中之ロコミ協では、介護保険法の一部改正に伴う地域包括ケアシステムの構築を進めており、その一環として、「こいこい車」という多世代交流広場を10月20日にオープンし運営している。毎週木曜に1回やっているが、来る足が無いという事で非常に苦勞している。自分が迎えに行っているが問題があるため、愛宕の園の福祉巡回バスを木曜に増便してもらうことを提案したい。
- 地域包括ケアシステムの巡回バスについて、区バスの状況も含め苦勞されている状況を確認した。区のモデル事業で非常に大切であるため、今は執行部と議論する機会がもてていないが、事故とかも心配なので、皆さんの考えているとおり事業者との連携が図れるよう意見を出していきたいため、ここは一旦預かりたい。